

2023年度 ガイドライン評価改善シート

施設名 (ドリームケアふいる とくら園) 作成日時 (2023年 7月 3日)

代表	施設長	本部
印		

令和4年度 改善への取り組み	
今年度の施設目標	衛生管理、安全対策の徹底・事業所全体で統一した支援に取り組む・保護者との連携を深める

項目	保護者評価、事業所内評価を踏まえた上での共通点	保護者評価、事業所内評価を踏まえた上での相違点
環境・体制整備	・バリアフリー化に関してのみどちらともいえないという意見があった	・環境に関しての大きな相違はなし
業務改善	・評価結果の周知について知らない ・全員が意見を言うことが出来、共有できる機会をもうけている	・保護者評価になし
適切な支援の提供	・アセスメントを行ったうえで、児童発達支援計画を作成している。 ・支援計画に沿った支援に取り組んでいる。 ・よこはま発達クリニック佐々木先生のコンサルテーションを1か月に1回受けることができている。 ・個別化を重視し内容を組んでいる	・障がいのない子どもと接する機会がない
関係機関や保護者との連携	・市町の保健センターや福祉課等と連携し、情報共有している。 ・地域の方から、畑作業のお誘いを受け、活動に取り組んでいる ・就学先と情報連絡会を行っている。 ・児童発達支援から幼稚園・保育園に移行する際、関係機関、行政の担当課と情報共有し連携をしている。 ・自立支援協議会の子育て部会に参加している。	・ベアトレ、家族支援プログラムまでは至っていないことが多い
保護者への説明責任等	・初回利用の前に保護者に運営規定、重要事項説明書の内容を説明している。 ・児童発達支援計画作成、評価の際に保護者と面談を行い、保護者の同意を得ている。 ・年3回の面談以外にも面談が随時可能であることをお知らせしている。	・保護者同士の連携支援が出来ていない(保護者交流会等)
非常時等の対応	・6月、緊急時対応について書面で配布した。	・ヒヤリハット内容について徹底できていない



分析検討してみた事業所の強み	分析検討してみた事業所の改善点
<ul style="list-style-type: none"> 施設内の構造化 「意味のある時間」を過ごすためのスケジュールがある コンサルテーションで定期的に学ぶ機会がある 協力的な保護者が多い 職員に意欲がある 全員が意見や案を言うことが出来る場がある 	<ul style="list-style-type: none"> 細かい視覚支援 各家庭の実状に合った「家族支援」を提案し、具体的な手立てを伝える 日々の活動の内容をどう伝えるか、ふいる便りの定期配信等、充実を図る必要がある

事業所の改善への取り組み
<ul style="list-style-type: none"> アセスメントに沿った視覚支援、物理的構造化に取り組み、よりわかりやすい環境を作る 家族支援⇒希望面談、登園時/降園時のやりとりの中で、各家庭のニーズを把握し、問題解決に向けて支援の手立てを提示していく 保護者、職員に、緊急時対応マニュアル、備蓄品、防災用品、訓練内容等の周知を継続していく 緊急時の保護者引き渡し訓練を計画、実施する 保護者交流会実施の検討 ヒヤリハット書面の再検討

自己評価を行った事業所としての感想など
<p>・保護者の方々とのやり取りの不十分さを感じた。こちらから、積極的に保護者の方々に話しかけ、今、困っていること、不安なこと、知りたいと思っていること等を引き出していきたい。また、自宅で作れる事に関して、こちらで十分に獲得してから移行していく流れをしっかりと説明していかなければならないと感じた。</p> <p>・マニュアル等全て揃って入る物の周知が出来ていないことが多い為、全体に流して周知していかなければならないと感じた。</p>

来年度の施設目標	<ul style="list-style-type: none"> 緊急時対応等の保護者・職員への周知 保護者とのコミュニケーション/情報共有 構造化だけではなく個別化された視覚支援の徹底
----------	--